

白浜空港の防衛訓練拒否を！

自衛隊の防衛訓練拒否、 「特定利用」指定撤回申し入れ

日本共産党のおくむらのり子県議は「安保NO！ 和歌山県民会議」と「特定利用空港に反対する田辺・西牟婁連絡会」とともに、「自衛隊統合演習における南紀白浜空港使用に関する申し入れ」を県に提出しました。

自衛隊統合幕僚監部は、南紀白浜空港で自衛隊が10月に米軍・豪軍参加のもとで大規模実動演習を行い、戦闘機などが連続離着陸（タッチ・アンド・ゴー）を3日間程度行う計画を発表。申し入れでは、これまで岸本前知事も宮崎知事も「災害訓練」を強調してきたが、実際は「特定利用空港」に指定されるまで南紀白浜空港で認められなかった防衛訓練が実施される事態になったと指摘しました。



申し入れる、おくむらのり子県議（奥から3番目）ら

その上で、県が防衛訓練の実施を拒否すること、統合演習の訓練内容を県として説明すること、県の騒音調査の結果を公表し、住民の声を十分聴くこと、「特定利用空港」指定を撤回することを求めました。



**白浜空港の滑走路延伸は
騒音と事故のリスク高め、景観と環境を破壊**



現在の進入灯橋梁

県は熊野白浜リゾート空港（南紀白浜空港）の滑走路を現在の2,000mから2,500mに伸ばすことを見据えた準備を進めています。滑走路は盛土によって延伸し、現在の進入灯の橋（写真）を国内外の観光客でにぎわう白良浜の方へ向けて伸ばすことが検討され、少なくとも約250億円が見込まれています。

おくむらのり子県議は、空港の周辺地域を視察。民間旅客機にとどまらず、自衛隊などが防衛訓練をおこ



視察するおくむらのり子県議

なうもとで、延伸されると航空機の進入路が白浜町の中心域にあたり、白良浜の上空を低空で進入してくることによる騒音の増大や、住宅地域・病院・役場などへの事故のリスクが高まること、景観が著しくそこなわれること、盛土による地盤の安全性が懸念されることなどの問題点を確認しました。



2026年度県予算への申し入れ



宮崎知事に申し入れるおくむらのり子県議

おくむらのり子県議は、2026年度予算編成に対する36項目の申し入れ書を提出し、重点3項目について宮崎知事と意見交換しました。



県内の全公立病院が赤字であり、県として緊急に支援するべきと求めたことについて、知事は「人口減で全ての地域に医療機関をお

くことが難しくなっている。(市町村をまたぐ)圏域でみられるようにする」としました。

国家安全保障戦略に基づく白浜空港の「特定利用空港」指定の撤回を求めたことについて、知事は「災害対応」であると強弁し、「訓練が県の意思にそぐわない場合は反対の意思を示す」とのべました。

教育費の完全無償化に向け、教材費や制服代、通学費、修学旅行代などに支援するよう求めたことについては「負担は認識している。給食費を無償化している」とするにとどまりました。



9月県議会 福祉環境委員会の質問

物価高騰の総合対策を

おくむら県議は、物価高騰により様々な影響が起こっているとして、総合的な対策で県民の命やくらしをまもるよう要求。生活に困窮し食事や入浴を節約する生活を強いられている県民が大変多いことを指摘し、県で確認できずに救い切れていない実態を把握して支援を強化するよう求めました。

社会福祉課長は「自治会の見守り活動など地域と連携した支援を市町村によびかけている」としました。



コスモパーク加太メガソーラー計画 慎重な審査を

おくむら県議は、コスモパーク加太で計画されているメガソーラーの住民説明会では、開催の周知が行き渡っていなかったり、加太地域以外の住民の質問をひかえるよう言われたりなど、事業者の不誠実な姿勢を批判。県の太陽光発電条例で慎重に審査するよう求めました。

環境管理課長は「事前協議手続きを5月に終了し、本申請にはいたっていない。住民に広くわかっていただける説明会にするよう指導している」と答えました。

「企業版ふるさと納税」拡大に反対

9月県議会では「企業版ふるさと納税」であつめた寄付金を基金に積み立て、これまで1年単位に限られていた事業から、複数年度の事業でも使えるようにすることが提案されました。「企業版ふるさと納税」は、自治体に寄付をした企業の法人税等を、寄付額の最大9割減税する優遇税制です。

おくむら県議は、寄付の見返りとして入札で便宜を図る官製談合が発覚し、認可が取り消された他県の事例などを示し、「企業版ふるさと納税」の拡大は自治体と企業の癒着や不正をさらに生み出す可能性があるとの批判。税收のかたよりは、地方交付税で調整するのが本来の国と地方の税制のあるべき姿だと訴えました。

